

つなぎ合った手と手、心とところ…
そのぬくもりが
共に生きる明日を作る…

ダンボ ふれあいバザー

30周年記念誌



「老いては老いての初心忘るべからず」福祉の種を蒔きつづけていきたいね。



福祉は水の循環のようなもの。他者のために自分のために。



すごいよね。30年前からSDGs！「誰ひとり取り残さない」の場になった。



みんなでやるのが楽しかった。



30年休まずに参加できたことが何よりうれしい。
95歳ですが、まだまだお手伝いしますよ。

ダンボふれあいバザーって、和田町の底力を感じるよね。



ありがとう

発行 2023年3月

福祉を考える会 / NPO 法人ダンボの会

福祉の種が地域に広がる日

福祉を考える会代表 青木 和雄

「ダンボふれあいバザー」が30周年を迎えました。継続は力なりという言葉の通り、長い月日とたくさんの方々の思いが集まり、地域を誰でもが住みやすい町へと変える力となりました。

ふれあいバザーの目的は「福祉」の種まきにあります。障がいの有無に関わらず、老若に関わらず、個々の事情に関わらず、参加者全員に種をまき育てるという役割を担っていただきました。肥料は「ありがとう」「お疲れさま」の言葉。水は自己肯定と感謝の心。福祉の種はしっかりと根を張り、すくすくと伸びています。近隣の小・中学校の協力で大勢の小学生や中学生もキッズボランティアとして活躍してくれました。多様な人々と知り合い、ふれあい一つ認め合い、支え合う時間は子どもたちの貴重な体験となったはず。卒業してもボランティアとして参加してくれる子どもたちもいます。「ここには試験よりも大切な学びがある」といつて受験勉強の最中に駆けつけてくれた中学生もいました。「バザーがあったから元気でいられる」と笑顔で語る90代の方もいます。私もそのひとりです。共に生きるという豊かな実りを地域作業所ダンボの存在がもたらしてくれました。

「福祉を考える会」では、バザーで得た収益の一部で様々な地域還元事業も開催してきました。人との出会いや社会との繋がりを感じながらの活動に、福祉は他者のためではなく自分自身の生きるエネルギーとなることを実感しています。

コロナ禍で中止していた30周年を迎えてのバザーは紙面での開催となりました。福祉の種をまき、水をやり、育ててきた実。そこからまた種がこぼれて新しい実が地域に広がることを信じつつ、バザーに関わってくださった全ての方々に心から感謝を申し上げます。



会場で東日本大震災チャリティー募金をする主演の吉井一肇さん

満員の関内ホール
バザー収益地域還元イベント
「エクレール お菓子放浪記」チャリティー試写会
主催：福祉を考える会&神奈川子ども未来ファンド
2011年7月



福祉の種が地域に広がる日 福祉を考える会代表 青木 和雄	2
ダンボふれあいバザー 30周年に寄せて NPO 法人ダンボの会理事長 原田 淳	3
NPO 法人ダンボの会とは…	4
福祉を考える会とは…	5
『ダンボふれあいバザー』が大切にしていること…	7
30年トピックス	9
発足時の思い	13
ダンボふれあいバザーの1日	15
ダンボふれあいバザー思い出/思い	17
ダンボ利用者メッセージ	17
ダンボ職員メッセージ	21
ボランティアの皆さん/家族会/あったか〜い手づくり品	23
座談会 ダンボふれあいバザーを語り合おう	25
第30回紙面ダンボふれあいバザー	29
キッズサポーター卒業生の声	31
バザー収益金をお届けした団体からの声	32
バザー収益寄付団体一覧	33
協力団体一覧	34

ダンボふれあいバザー30周年に寄せて

NPO法人ダンボの会 理事長 原田 淳

ダンボふれあいバザー30周年おめでとうございます。そしてありがとうございます。多くの皆様に感謝致します。

NPO法人としての設立は平成23年ですが、地域作業所ダンボが開所したのはそれから遡ること28年、昭和58年です。まだ福祉が今のように整備されておらず地域作業所も手さぐりの時代でした。親の力で運営を維持する時代に地域作業所を開設した玉井きみ江さんをはじめとするご家族の方々の苦勞は想像もつきません。

地域作業所ダンボが開所して約8年後の平成3年に第1回のバザーが開催されました。世の中で障がい者に対する理解が乏しく、地域での受け入れもあまりされていないこの時代に故安井覚明氏、青木和雄氏が中心となって立ち上げた「福祉を考える会」はダンボが地域で根付くための大きな力となり、地域福祉の先駆けとなりました。資金面の支援はもちろんですが、地域の方々に障がい者の理解を深めていただくための大きな力となりました。今でこそ様々な福祉の施策により障がい者が多くの市民に理解され始めていますが、それを早くから実践したのが「福祉を考える会」です。ダンボは早い時期から地域の中で生きてきました。ダンボふれあいバザーが子どもたちの心を育て、地域を耕してきました。

これからも地域の中で生きる「ダンボ」であるために、多くの皆様に愛される「ダンボ」であるために「福祉を考える会」の皆様をはじめ多くの地域の方々の支援をお願い致します。



ダンボふれあいバザー

「ダンボふれあいバザー」は、ダンボの年間行事のひとつです。地域の方々との出会いふれあいの場として福祉の輪を広げることを目的としています。



「空とぶダンボ」 をご存知ですか？

みんなとちょっとちがう耳の大きな赤ちゃん象のダンボ。小象になっても、耳が大きいことを笑われて、仲間はずれにされながらも、その個性と友情でついに空をとんで人気者になった「空とぶダンボ」の話です。ダンボのようにいつか空をとべる日を夢見て「ダンボ」と名付け1980年に活動をスタートさせました。

(主) 地域支援事業所ダンボ

- 社会人としての役割と生産活動の機会を提供し、仕事の意味や楽しさを知っていただくための支援を行います。
- 仕事や外出プログラム等の体験を通し、日中活動の充実を図ります。
- 病院用カーテンのフック付け作業を、月曜日から金曜日までの週5日、午前10時から15時まで行っています。

(従2) 第三ダンボ

- 地域の皆様に愛されるお店を目指します。
- パンの製造・販売を通し、ご利用者一人一人が意欲を持ち自主的に取り組めるような環境整備を常に意識します。

(従1) 第二ダンボ

- 仕事以外の楽しみや、新たな自分を発見するための創作的・文化的活動を行います。機織り、茶道、お菓子作り、手芸、木工、ダンス他。
- 多数のボランティアさんのお力をお借りして、ご利用者全員が各グループでものづくりを行います。
- 毎年開催されるダンボふれあいバザーでの販売を中心に、自主製品を通して地域生活への参加を促します。

グループホームダンボ 一番館二番館

- 精神的にも経済的にも安定した地域生活が送れる場と、障がい特性に応じた生活に必要な様々なサービスを提供します。
- 親元を離れた入居者が、職員の援助を受けながら失敗や成功を繰り返しながら地域の中で主体的に暮らしています。

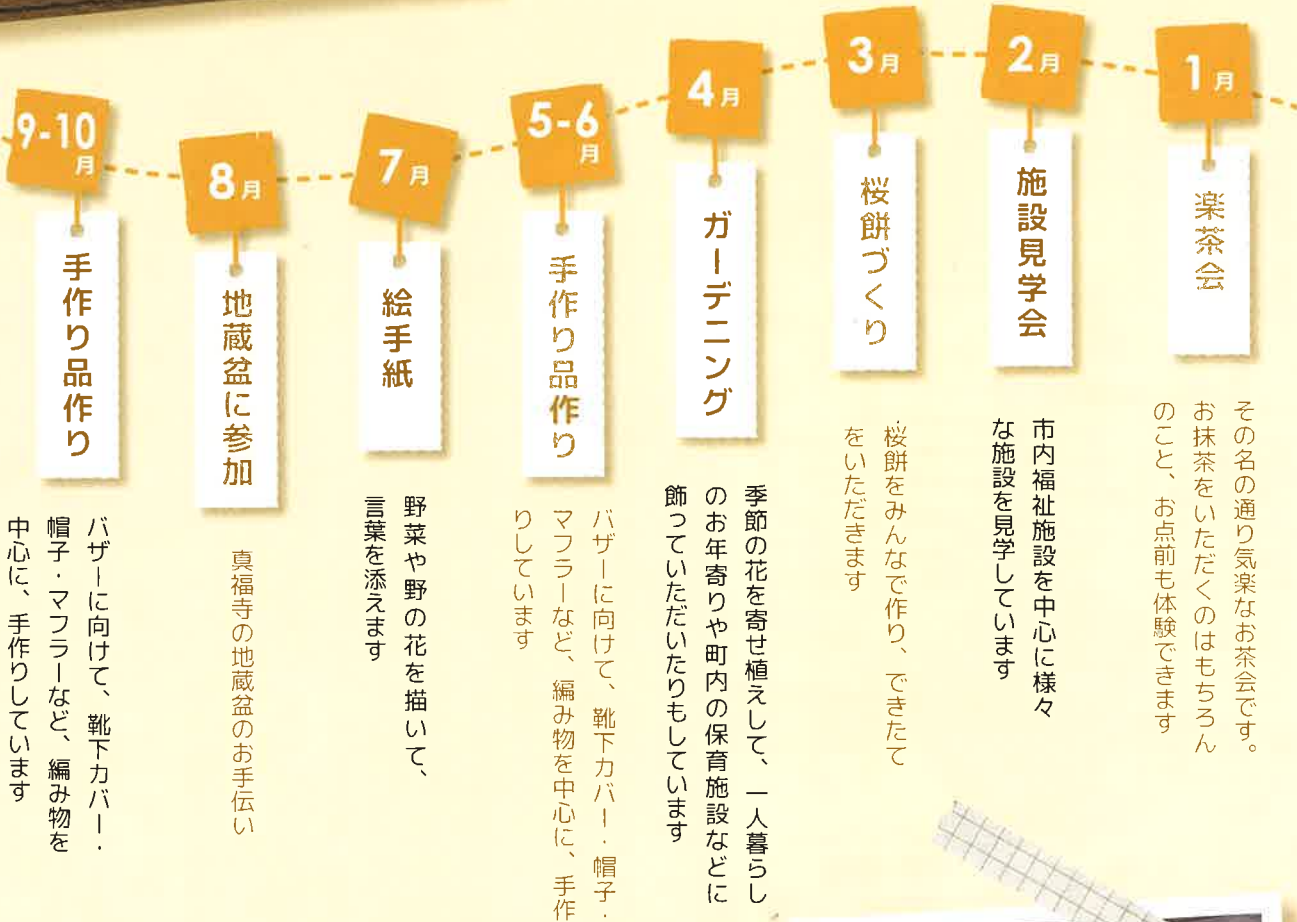
NPO 法人 ダンボの会 とは...

NPO 法人ダンボの会

<http://dambonokai.jp/>



主なふれあい茶話室メニュー (※参加費 100 円)



7月

絵手紙



3月

桜餅づくり



2月

施設見学会
ダンボのパンやさんでパン作り体験



1月

楽茶会

福祉を考える会 とは…

活動内容

- NPO法人ダンボの会との共催による「ダンボふれあいバザー」の開催
- バザー収益金の一部を使つての地域還元活動
- ▼ 第4土曜日に、ダンボと地域の方々との交流をはかることを目的にふれあい茶話室を開催
- ▼ サロントークや上映会の開催

趣旨

平成3年・4年に開催された地域作業所「ダンボ」との共催による「ふれあいバザー」を通して、地域とのふれ合いの大切さ、楽しさを実感したバザー実行委員会の仲間たちが集まり、正式に会の発足となりました。

お互いに持つている知恵や力を出し合つて、子どもたちや高齢者の方々、そして支え手が必要としている方々のサポートを中心に、地球的視野に立つての豊かな社会造りに寄与することを目指し、市民意識を向上するための提言と活動をしていくことを目的としています。

『ダンボふれあいバザー』が大切にしていること…



『ダンボ
ふれあいバザー』
趣旨

例年11月23日に開催している『ダンボふれあいバザー』は、『NPO法人ダンボの会』と『福祉を考える会』が中心となって、地域の方々やたくさんの方々のサポーターとともに、ふれあいと福祉の輪を広げることが目的としています。

近隣の小中学校から大勢のキッズサポーターが参加しています。飛び入りボランティアも大歓迎です。楽しくふれあいがながら、NPO法人ダンボの会と利用者（障がいがある人たち）へ、そして、子どもたちや高齢の方々へ、温かな応援の輪を広げていきたいと思っています。皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

バザーの収益金は、『NPO法人ダンボの会』の活動資金と地域還元（福祉を考える会）の他、NPO活動団体などへの寄付として、使わせていただきます。

ふれあい

ダンボの利用者・職員を中心に地域だけでなく多くのボランティアがバザーを盛り上げています。小さな子どもたちから高齢の方まで幅広い年代の方が活躍しています。

423人ものボランティアで会場が熱気に包まれたこともあり、11月23日は、「たくさんの方々がふれあいに優しさがある日」です。

収益金の寄付と地域還元



サロントーク（毎日新聞 野沢 和弘氏を招いて）

ダンボふれあいバザーの収益金の一部をNPOや東日本大震災など困難に遭った人々に寄付しています。日頃は支えられないことの多いダンボですが、寄付を通じて社会に貢献しています。

また、「福祉を考える会」は、上映会やサロントークを開催し、収益を地域に還元しています。

ダンボの作業体験

「ダンボはこんなことをしています」という仕事の紹介だけでなく、利用者とふれあってほしいという思いから日頃の作業が体験できるコーナーを設けています。利用者と一緒にカーテンのフック付けを体験することで、お互いを思いやる気持ちが生まれればと願っています。



ダンボ作業体験

キッズサポーターの活躍

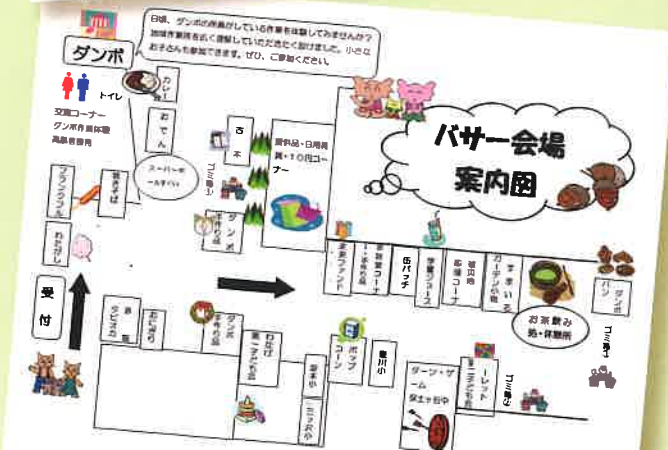
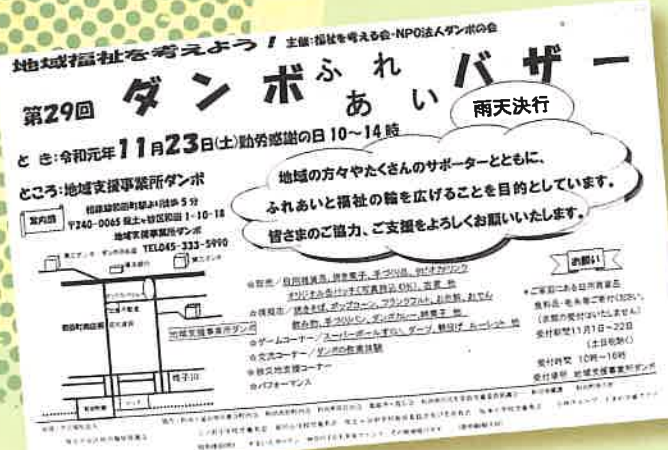


エコパトロール隊

近隣の小中学校から毎年たくさんの子どもたちが参加しています。小学校は、ダンボバザーに合わせて作った品物を販売したり、ダンスを披露したりしています。そして、「エコパトロール隊」を結成、ダンボの利用者と一緒にゴミの分別に取り組んでいます。中学生は、模擬店の手伝い以外に、来場する高齢者の接待やダーツゲームで子どもたちを楽しませています。



模擬店を手伝う子どもたち



バザー掲載記事

30年トピックス

1980年10月〜1989年3月 1981年4月、「訓練会ダンボ」開設。1983年7月、訓練会から運営委員会に組織を変え「地域作業所ダンボ」を開設。1985年11月運営委員会式「グループホームダンボ」開設。1989年3月、現住所にて「地域作業所ダンボ」活動開始

バザー

ダンボ

第1回
第2回
第3回
ダンボと福祉を考える会、初めての共同開催

グループホームを神奈川区羽沢に移転
「7月」



福祉を考える会

福祉を考える会メンバー募集 「6月」
「ノックしてください。あなたの手で…」
福祉を考える会発足 「9月」

地域作業所ダンボにて「居場所の力」という
テーマでNPO法人フリースペース理事長
西野博之氏による講演

保土ヶ谷公会堂にて 上映会「先生あした晴れるかな」開催 「6月」

地域作業所ダンボにて 上映会「とべないホテル」
開催 「6月」
70名以上の参加で熱気ムンムン

……会報第1号発行 「4月」

……会報第2号発行 「4月」



第8回

「第二ダンボ」開所 「4月」



第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

「地域作業所ダンボ」20周年

「グループホーム二番館」を保土ヶ谷区
仏向町に開所 「1月」



第8回

……会報第3号発行 「7月」

保土ヶ谷公会堂にて トーク&シネマ「どんぐりの家」開催 「7月」

地域作業所ダンボにて「地域が変われば子どもも変わる」という
テーマで話し合い 「2月」

地域作業所ダンボにて 記念講演「保健室からの発信」野村昇子
先生（本郷中学校養護教諭） 「6月」

関内ホールにて 青木和雄・吉富多美共著映画「ハッピーバース
デー」試写会開催 「9月」

……会報第4号発行 「9月」

保土ヶ谷公会堂にて 青木和雄・吉富多美共著トーク&シネマ
「ハッピーバースデー」試写会開催 「3月」

地域作業所ダンボにて サロントーク「殺さないで」虐待される
子どもたち ゲスト：野沢和弘氏（毎日新聞記者）
聞き手：青木和雄

地域作業所ダンボにて トーク「傷つく子どもたち」救うのは愛、
ゲスト：後藤京子氏（後藤ホーム主催）

地域作業所ダンボにて サロントーク「今を生きる」体験を通して
学んだこと、ゲスト：上野創氏（朝日新聞記者）
聞き手：青木和雄

……会報第5号発行 「1月」

保土ヶ谷公会堂にて 上映会「アイ・ラブ・フレンズ」開催 「1月」

保土ヶ谷公会堂にて トーク&シネマ「ハードル」開催 「5月」

第15回

第16回

第17回



第18回

第19回



第20回

安井覚明代表の鈴
割りでスタート
20縁均一開催



第21回

東日本大震災
応援コーナー
出店



「NPO法人ダンボの会
設立」〔2月〕
地域作業所から地域活動
支援センター（作業所型）
に事業移行
「第三ダンボ」開所〔11月〕

第22回

22年目に
て初めて
の雨のバ
ザー



「グループホーム「一番館」を神
奈川区羽沢から保土ヶ谷区仏
向町に移転 一番館二番館が
隣同士の現在の形となる 〔1月〕
作業所開所30周年

第23回

第24回

第25回

第26回

ダンボ・坂本小学校・三
ツ沢小学校児童による
ダンスステージ始まる



第27回



地域活動支援センターから生活介護事業所に事
業移行 事業所名を「指定障害福祉サ―ビス事
業所地域支援事業所ダンボ」に変更する 〔4月〕

コロナ感染拡大により中止

2019

2018

2017

2016

2015

2014

2013

2012

2011

2007

2008

2009

2010

2011

2012

2013

2016

2017

2018

保土ヶ谷公会堂にて トーク&シネマ「地域の子ども育てか」
「子ぎつねヘレン」開催 〔7月〕

パネラー… 神田文雄氏（星川小学校校長）
ビリー諸川氏（常盤台小学校PTA会長）
三輪律江氏（横浜国立大学准教授）
コーディネーター… 青木和雄

地域作業所ダンボにて サロントーク「子どもを見守るということ」
開催 〔5月〕

パネラー… 木村廣氏（保土ヶ谷中学校校長）
三輪律江氏（横浜国立大学准教授）
コーディネーター… 青木和雄

地域作業所ダンボにて サロントーク「車椅子から見たもの」
〜共に生きるということ〜開催 〔5月〕

ゲスト… 服部一弘氏（横浜市陸地域ケアプラザ所長・「アニミ」理事長）
聞き手… 青木和雄

関内ホールにて 朗読劇「ハッピー・バースデー」100名様ご招待
協賛 〔11月〕

……会報第6号発行 〔11月〕

……会報第7号発行 バザー20周年特集 〔10月〕

福祉を考える会地域作業所ダンボにて 「だれもが支え合える地域
づくり」〜防災から考えるつながり〜保土ヶ谷区内障がい者施設
等支援スタッフの出張出前講座 〔5月〕

関内ホールにて 「エクレール お菓子放浪記」チャリティー試写会
主催…福祉を考える会&神奈川子ども未来ファンド 〔7月〕

……会報第8号発行 〔11月〕

地域作業所ダンボにて サロントーク「縁を結ぶ」〜人と人との絆〜
開催 〔5月〕 ゲスト…山本修司氏（毎日新聞横浜支局長）

……会報第9号発行 〔11月〕

地域作業所ダンボにて サロントーク
「鈴木初音・木村靖トーク&ライブ」 〔6月〕

……会報第10号発行 〔11月〕

地域支援事業所ダンボにて サロントーク「困難を抱える子ども
たちに大人は何かできるか…」
武藤啓司氏（若者の自立を支援するNPO法人リロード代表）



地域支援事業所ダンボにて サロントーク「共に生きる地域づくり」
〔6月〕 大久保教諭（坂本小）・原田理事長（坂本小）

第二ダンボにて 上映会「みんなの学校」開催 〔5月〕

発足時の 思い

2010年の福祉を考える会の会報で「ダンボふれあいバザー 20周年」を特集しました。30周年を迎えるに当たり、その中で4人が語ったバザーへの熱い思いを再び掲載させていただきました。

※肩書きは、2010年時のものです。



福祉の種

を蒔きつづけて
いきたい

お寺を地域文化の発祥地に、また地域の声が集まる場所にしたと願いつつ、住職を務めてきました。20数年前に玉井さんと出会い、作業所ダンボの存在を知りました。場所の確保や運営のことなど悩みを抱えておられる様子だったので、お役に立てればとダンボの応援団に加わりました。ダンボふれあいバザーは、福祉の種を蒔こうという主旨のもとに、たくさんの方々にご参加いただいております。お陰様で、年を重ねるごとに大きく成長してきています。世阿弥の言葉に「老いては老いての初心忘るべからず」という言葉があります。わたしも初心にかえって、福祉の種を蒔きつづけていきたいと思っています。



福祉を考える会代表 / 真福寺住職
安井 覚明さん

※2016年ご逝去されました

「知るは愛なり」バザーがお互いの
理解を深めるきっかけになれば

小学校の校長をしていたときのこと。隣接していた個別支援学校と合同で運動会を開催しました。最重度の障がいのある子どもたちと地域の人たちも参加する運動会が、お互いの理解を深めるきっかけとなりました。「知るは愛なり」といいます。

人とのつながりが希薄となった地域には、子どもたちへの愛も生まれにくいでしょう。ふれあいバザーが、互いを知り合うチャンスとなれば、発起人のひとりとしてこんなに嬉しいことはありません。小さな善意の種が、20才まで育ちました。地域の方々や協力いただいた皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。



福祉を考える会副代表 /
和田西部町内会会長
青木 和雄さん

参加して
楽しい

安心して遊べるバザーを目指したい

毎年、たくさんの方々、ダンボふれあいバザーを応援してくださり、おかげさまで20周年を迎えることができました。本当にありがとうございます!! 地域との繋がりが持てないことが、多くの作業所の悩みとなっています。ダンボほどしっかりと地域に支えられている作業所は他にないと思います。すごいことなんです。「福祉を考える会」を中心として、学校がカリキュラムに組み込んだり、町内会が年間行事に組み込んだりと、いろいろな組織がいつしょになって盛り上げてくれています。これからも、参加して楽しいバザー、障がいのある人も安心して遊べるバザーを目指してがんばります!!



地域作業所ダンボ所長
村山 功さん

地域のみなさんに見守られて、

ダンボは安心できる
居場所

まさか、まさかです。バザーがスタートしたときは20年もつづくなんて予想もしていませんでした。作業所のことを理解してほしい、障がいのある子どもたちをなんとか地域に受け入れてほしいと思い悩んでいたある日、青木和雄先生がいとも簡単に「みんなバザーをやるうよ。」と言ってくださったんです。そんなことがやれるだろうかと思いましたが、とても気軽な言い方に救われました。安井覚明先生の存在も大きな支えとなりました。障がいをさらけ出すことの不安や怖さはありませんでしたが、おふたりの笑顔が、前進する力を与えてくださいました。地域のみなさんに見守られて、ダンボは、障がいのある人たちの安心できる居場所になっています。ダンボふれあいバザーは関わる人は変わっても、これからも、ずっと続いていくと信じています、願っています。



地域作業所ダンボ初代所長
玉井 きみえさん



ヨーヨーつり、ゲームコーナー、手作り品などの売り場を皆で分担してお店番



～お茶飲み処～利用者の方が点てたお抹茶を小学生がお運び



第三ダンボのパン屋さんのパンは即完売の人気



利用者さん頑張ってます



"ダンスを踊りたい" 余暇活動の中で芽生えた思いがバザーで実現。恋するフォーチュンクッキー、エビカニクス、USA など、ほぼ完コピに近いダンスを披露



小学生もこの日のために練習したダンスを披露



分別ゴミが叫ばれる以前から"エコパトロール隊"はバザーを支えてきました。地域の小学生ボランティアと協力してゴミを減らす努力を重ねてきました。



エコパトロール隊



開場と同時ににぎわうバザー

スタート!

ダンボふれあいバザーの1日



午前 10:00 青木代表の開会の挨拶と"エイ!エイ!オー!のかけ声でバザーがスタート



提供品売り場は大盛況

子どもたちが大活躍

作業体験コーナー
ダンボで毎日おこなっている医療用のカーテンのフック付けを体験する来場者。とても細かい仕事なので、利用者の方がお手本を見せると"すごい!"と歓声があがります。



手作り品を販売する小学生



とや
エコパート

佐藤 友哉



高下 明彦



高下 恵



岩田 百合子

ダンボふれあいバザー 思い出 / 思い

ダンボ利用者 メッセージ

*印は、職員がメッセージを聞き取りしたものです。

- * ホーム特製のクッキーを前日から焼いて売りました。
- * お抹茶飲んだよ。ゲームでぬいぐるみのプーさんをもって、大切にしています。
- * パン屋さんは、すぐ売り切れちゃって、自分のお店番がなくなったこともありました。
- * おでん、お赤飯おいしかった。焼き鳥も買いました。
- * ダンス、ぶつかっちゃうけどみんな笑っていました。

↓エコパトロール隊のこと

正直、怪我も受けました！エコパート隊では...
おなみの光景...
ご来賓の方々と先、エネルギーチャージのため、
エコパトロール隊だけの食事会？がスタートする...
カレー、ギョウザ、やまどり、焼きそば などなかも
食べて食べまくる！さながら...
「フードファイター」のようになることも？！
そして、出発する！



黒田 瑛子



佐野 正和



玉井 洋



伊地知 忍

- * エコパトロールの思い出
たのしかった、おいしかった。
- * クッキーを作って売りました。紅茶のクッキー。
- * ホームのお店もありました。



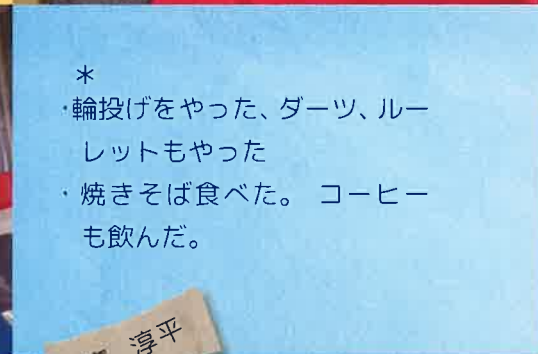
山本 範子



山野 遥



小泉 欣央



住廣 淳平

- * 輪投げをやった、ダーツ、ルーレットもやった
- * 焼きそば食べた。コーヒーも飲んだ。

やきそば ゆたあめ

フランクフルト

だいたいのおじいちゃんも

ありがとう



境 美和子

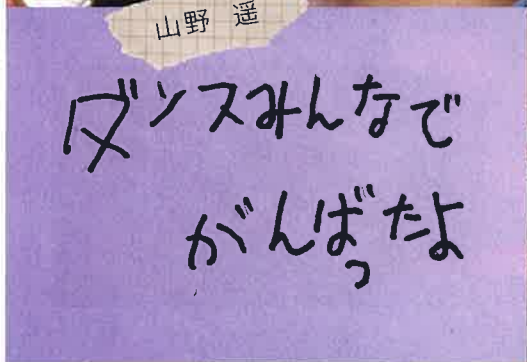


永森 勇志



宇佐美 秀雄

。まじりさんと おみせまわり
もしました。



ダンスみんな
がんばったよ



小泉 欣央



純浦 晴海

- * 焼きそばを食べた。カレーも食べた。
- * ラジオ体たのしかった。またやりたい。

勝又 政隆



フランクフルトがおいしいなあ。
いろんなものがある。
カレーとかおでんとか、
いちばん好きなのはからしとか、
よくはなして、おでんとか、
よくはなして、おでんとか、
うちはダンスが大好きです。
BTSとか、うさぎとか、
いちばん好きなのは、ハロウィンのカチューシャ。



河口 仁志



中川 加奈江

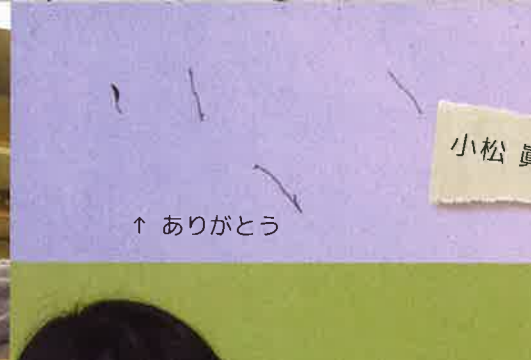
- * ヨーヨーつりのお店番をやった
- ・ 第三のパンを買いました。
- ・ ガッツ、ラジオ体操をやりました。
- ・ またやりたい。



竹田 安加莉



小比賀 幸将



小松 眞次



*
ありがとう。



中川 松代



中山 陽介

- * 青木さんと一緒にバザーに行った。
- ・ バザーないの??



小林 ひかる

ありがとう
ゲームたのしかったです



平川 千枝子

いつもフリーでたべものを
かまへたりの人だりとして
いて1人でたのしんで
いたのいいバザーのじかん
でした。またさいかいをわか
いころのさいかいでいけると
いいなと思ってあります。



那須川 賢



太田 総

おげんき



松下 仁哲

タコと小ねあいバザー
30年回
たのしいことば
いっばい(金)あります
おげんきごさいます



柏木 かおり

- * エコパトロール隊の思い出
たのしかった、またやりた
い。あびちゃんとやりた
いな。

- * 焼きそばを食べた。サイダーを
飲んだ。
- ・ こわーい本を買いました。
- ・ 電車の本も買いました。ノート
も買った。
- ・ 金具付けをやってみせました。
- ・ くじで、ラムネが当たりました。
- ・ 楽しい思い出です。



神部 好枝

↓ コーヒーをのんだ
おげんき

斉藤 翔平

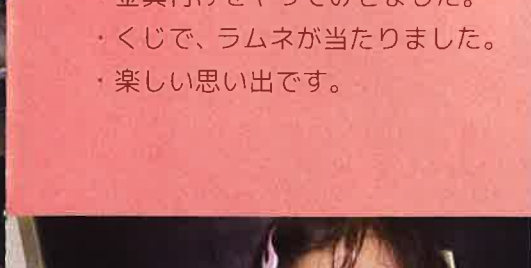
茶会で、林葉をたつとしました。
おげんきとしました。
お家さま達へ、たくさん
果てくれしました

おげんき

末永 拓己



鈴木 まゆみ



石川 志津子

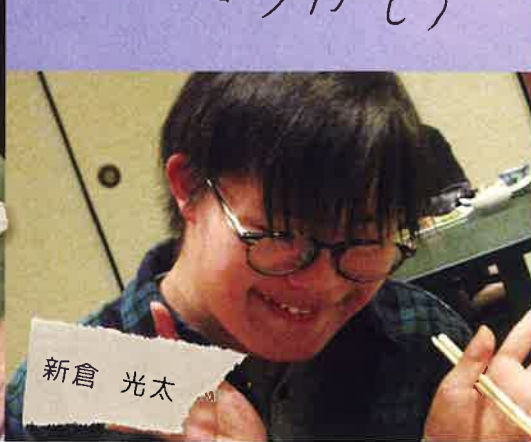
パンカさん
いっばい
泳たよ
ありがとう



鈴木 香織



あけがとう



新倉 光太



池田 修策

ダンボ職員 メッセージ

バザー30年の歴史に少しですが
関わることができたことに感謝を
申し上げます。これからもうござ
よろしくお願い致します。

田村

押し寄せるお客様に圧倒されな
がら、あつという間にパンを売り
切って、みんなと食べたおでんは
格別でした。

大島

雨が降っても…前日準
備。雨が降っても…当日開催。
でも不思議いつの間にか青空の
下、沢山の笑顔が集まっている。いろ
いろな人と出会い、そこから始まる
大切な時間がある。それがダンボ
ふれあいバザー。私の好きな場所。

奥山

ダンボに関わり40年。
バザーに関わり30年。多くの
皆様に支えられ、育まれた福祉へ
の心意気は大きな自信と自慢になり
ました。感謝です。3人の子を育て
るハハから、5人の孫のババになり
ました。今度は孫と参加します。

長島

私だけでなく、母も
娘たちも参加させて頂
いていました。寒い日
の温かい時間に感謝
です。

守谷

バザーで出会い、共に過
ごした方々が今ではパン
屋のお客様。ご縁と愛
に感謝です。

安彦

ダンボふれあいバザーはダン
ボの会が多くの皆さまに見守ら
れ、支えられていることを実感する
1日でした。皆さまあつてのバザー
です。心の底から感謝いたします。

牛渡

★青木家の皆様へ感
謝を込めて★ ご自宅のお
庭にまでテントを張って会場と
したバザーは「横浜中探しても無
い」と断言できます。感謝を超
える思いを次世代のダンボに引
き継いでゆきます。

原田

前日準備からワクワ
クが止まらず、朝早くから
動き出す皆様と一緒に迎えた
バザー当日の嬉しさは忘れられま
せん。地域の皆様に支えられてき
た歴史をこれからも大切にして
行きたいです。

石川

ダンボふれあいバザーの思
い出は、夜明け前におにぎりを
受け取る事から始まります。
朝もやが晴れると和田町にたくさ
んの笑顔がありました。

前川

地域の皆様と共に歩み、ご
理解、ご協力に支えられてダン
ボの会は安定した福祉活動を継続
できました。深く感謝致します。

今福

地域の皆様からのご協力と
愛の賜物だなあ…と実感させら
れます。感謝の気持ちを忘れずに、
今後永きにわたって地域に根差
していけるよう努めてまいり
ます！

土屋

ひょうたんのツルが楽しく伸び
ている ダンボバザーの賑わ
いみたいね(渾身の一句)

浅野

ダンボふれあいバザー30周
年おめでとうございます。
地域の皆さまと歩み、作ってきた
この素晴らしい歴史がいつまでも
続きますように。

三宅

バザーを語る時の皆さんの目は
まさにキラキラです！その目を守
れたらいいな…と思います。

三堀

ダンボに入った時から
バザーはお休みでしたが、その
分期待十分で次のバザーを楽しみ
にしています！よろしく願ひし
ます。

渡邉

生活が一変し、まだ見
ぬバザーですが…地域
の方々と作り上げていくバ
ザーに参加できることを楽
しみにしております。

吉田

バザー30周年おめでとうご
ざいます。それぞれの心に残
る思い出がこれからも増え
ていきますように。

岡田

まだバザーを見たことあり
ません。これから盛り上げられ
るよう頑張ります！よろしく願
ひいたします！！

永井



家族会

利用者の家族の皆さんは、前日準備から、当日の店番まで、休む暇もなく、我が子の活躍も見られないままバザーが終わる...という状況でした。



あったか〜い

手づくり品



正月やクリスマスの飾りを初め、ダンボの自主製品はバザーで大人気の商品となっています。どれも、ボランティアさんの力を借りてコッコツと仕上げたものです。

一方、福祉を考える会では、大正生まれの星野さんのご指導のもと、バザーに向けて「ふれあい茶話室」を中心に靴下カバー、帽子、マフラーなどを手作りしています。

当日は、お店番も担当しています。永遠の若さの秘密はボランティアへの情熱！

ボランティアの皆さん

OBボランティア（チームK）

青葉幼稚園の母の会の活動の中に「ひまわり委員会」があります。子どもたちが幼稚園で過ごしている間、ダンボの「ものづくり」をお手伝いに来てくださっています。OBボランティア（チームK）は、「ひまわり委員会」のOBで、子どもたちが卒園した後もダンボの「ものづくり」を支えていただいています。そして、子どもたちも大きくなり、おかあさんと一緒にバザーを手伝ってくれるようになります。今では、みな社会人です。



シニアボランティア

第二ダンボが開所した直後からダンボの「ものづくり」に関わってくださっています。家族会から引き継いだ様々な手芸材料を巧みに扱い、一年かけてコッコツと手づくり品の製作をお手伝いしていただいています。当日は、ほとんどが4時間程で売れてしまう大人気の手づくり品です。



カーテンのフック付け、アロマテラピー、絵手紙、機織り、他にもたくさんボランティアに支えられています。

座談会

ダンボふれあいバザーを語り合おう

『ダンボふれあいバザー』思い出号の終着駅は2022年。コロナ禍で対面でのバザーを自粛して2年が過ぎました。これまでバザーを牽引してきた福祉を考える会の方々にそれぞれの思いを語っていただきました。

令和4年6月30日 / 和田町西部町内会館

出席者 青木代表 / 木村副代表 / 玉井 / 吉富 / 星野 / 田口 / 樋口 / 遠藤 / 武藤 / 長島 / 鈴木 / 田村

司会

『ダンボふれあいバザー』30年の思い出を語りあいましょう。まずは皆さんとバザーとの関わりについてお聞かせください。

青木代表

「11月23日は何の日？」と問われて、「勤労感謝の日」と答えるのが一般的かと思う。けど、この地域の人たちは「ふれあいバザーのある日だよ」と答えてくれると思う。それだけ地域に定着している。

30年という時間の重みはすごいよ。準備から後片付けまで骨身を惜しまず、関わってくれた皆さんの思いも伝わっていると思う。バザーだけではなく、子どもたちの未来や社会にも目を向けて活動してきたよね。福祉を他人事ではない自分事として考え続けていこうというのが会の出発点だった。バザーにもその理念はしっかりと盛り込まれてきたと思う。

武藤

私のバザーデビューは3年前です。家業の中華料理店が忙しくて地域のことは何も知りませんでした。主人が亡くなったのを機に閉店し、町内会のお手伝いをするに。

バザーでフランクフルト屋さんをしました。いろんな方とお話できて楽しかったです。今は、自分の住む地のことをもっと知りたいと思い、忙しく活動しています。

星野

30年はあつという間ね。私も95歳になりました。週1回通うデイサービスで、隣に座っている人の手仕事を手伝ったり、タオルで掛け布団の襟を作

るお手伝いをしています。まだまだいじょうぶ。頭も手も動かせます。会の活動やバザーで自分もお役にたてるという気持ちを持てたからです。関わってきてよかったです。

鈴木



第5回から参加しています。近所の夫婦3組でやきそばを担当しました。1年に1回『ダンボふれあいバザー』に参加して皆に会えるのが楽しみでした。このバザーは、お年寄りから小さな子どもまで幅広い年齢層が参加して、ダンボの利用者さんもボランティアさんも皆が主役、まるで街の縮図のように思えました。

遠藤

私の家はダンボさんのお隣りです。11月23日は結婚記念日でもあり忘れられない日です。バザーへの本格的参加は夫が亡くなったから。参加して皆さんの話を伺うと子どものことや社会のことなども知ることができし、話し相手もいる。今の私の元気の源です。

樋口



私は第1回から参加しています。最初は日用雑貨コーナーを。その後は、青木先生のお宅をお借りしてお抹茶を点て、ボランティアさんの休憩の接待をしました。青木先生のご家族には、ご自宅やお庭を開放してくださり、本当に感謝しています。ダンボの茶道部の利用者さんたちとお抹茶とお菓子を100円で売ってお茶処も担当しました。キッズサポーターさんもお運びをやってくれ

田口

町内会の役員になって関わるようになりました。最初に担当したのがフランクフルトのコーナーで、楽しくてやみつきになりました。バザーが近づくごと近所の方々からよく声をかけられます。「これ、売れるかな」「バザーに出してほしいんだけど」とか。地域に根付いたバザーなんだと嬉しくなります。



星野

月1回のふれあい茶話室で制作した作品の販売もしました。皆が一生懸命作ったものだから、値引きがなかなかできなくて困りました。靴下カバーと帽子はよく売れましたね。

田村

私は会の発足からの参加です。最初の頃は日用品や古着の担当を。品物がたくさん集まり、よく売れる時代を経験しました。最近はダンボバザーの特徴であるキッズサポーターのコーディネートをしています。星川小、三ツ沢小、坂本小の皆さんが学校単位で毎年参加。時間をかけて作った作品などを販売してくれました。保土ヶ谷中学校有志の参加も心強かったです。難しい年頃の中学生がダーツゲームで子どもたちと遊



んだり、高齢者や利用者さんを気づかいながらお店の手伝いをしていたり。頼もしくてまぶしかったです。コロナによってバザーも形を変えるときに来ているのかもしれませんが、人とのつながり

を大事にするというところは、今後変わらないと思います。

司会

『ダンボふれあいバザー』の誕生には、安井先生、青木先生、玉井さんの存在が大きかったわけですが、安井先生の思い出を聞かせてください。

青木代表

安井住職の協力がなければスタートも継続も難しかったと思う。ダンボが今の場所まで活動を始めたようにした時は、まだ社会でも地域でも障がい者への理解が十分とはいえませんでした。地域の端へと追いやる風潮があった。作業所の家主となる私の耳にも懸念の声が聞こえてきました。そんな状況のときに、地域作業所設立のために安井先生と地域の方々が付を申し出てくれた。この地域には福祉の芽を育てる土壌がある、人がいると信じられた。精神的にも大きな支えとなりました。住職の強力な支援を得てバザーを開催し、『福祉を考える会』を立ち上げた。皆で蒔いた種に注ぐ水を涸らさないために、井戸を掘ってくれた住職の熱い思いを忘れてはならないと思う。

玉井

まだ作業所ではなく、障がいのある人たちが社会に出て行く訓練をする場ということで『大人の訓練会』と呼んでいた頃の話です。



安井先生のところにご挨拶に伺った時、先生が「地域の中で、こんなに大変な思いをして、子育てをしているお母さんたちがいることを今まで自分は知らなかった。本当に申し訳なかった。是非応援させてほしい」とおっしゃってくださいました。先生が真福寺で地藏盆を始めたとき、ダンボの利用者はお客さん

一同

として招待されました。その後、自分たちも参加させてほしいとお願いし、カレーを売るようになりました。障がい者が地域で何かを始めるといことは、周りの理解がなければ大変なこと。とても怖いことなのに大きな一歩を踏み出すことができたのは、和田町という地域と安井先生、青木先生のお力によるものだと思います。私がバザーで担当したのは10円ショップ。子どもたちのふれあいが楽しい思い出です。

安井先生はバザーで、どこのお店でもいろんな品物をたくさん買ってくれました。広告塔のように買った古着をすぐその場で着てくれて。誰にでも優しく懐もお財布も大きかった(笑)。お亡くなりになって6年。とても大きな存在でした。

木村

ダンボさんの作業所と青木先生のご自宅でお庭でバザーができたことをとても感謝しています。古い会場のレイアウトを見ると、会計担当として釣り銭回収のことが思いだされませんが、懐かしさと同時に愛着を感じます。



青木代表

バザーの前日はいろいろと心配で眠れなくてね。雨が降ってテントの屋根がつぶれそうになった時もあった。下から棒でつついて何とかしのいだり。ダンボの職員さんたちも頑張ってくれたね。バザー近くになると毎晩遅くまで作業所に灯りがついていた。気苦労働も準備も大変だったと思う。

長島

大変でした(笑)。利用者さんの体調管理も含め、とにかく事故のないようにと細心の注意を払って臨みました。胃が痛くなるくらいの心配も、当日のにぎわいとみんなの笑顔に吹き飛びました。利用者さんともとても楽しそうでした。作業体験コーナーの参加者が、その後も作業所のボランティアに参加してくれるなど作業所への理解も広がりました。



吉富

準備会からの参加です。小学生だった娘もバザーに参加して多くを学んでいます。今は小中学生の母親となりましたが、バザーのおかげで、自然に多様性を身につけることができました。福祉の種は参加した子どもたちの中で育ち、未来へ伸びていることを実感しています。障がいのあるお子さんの養育に不安を抱えているお母さんをバザーに誘ったことがあります。みんなの笑顔を見て「この子を育てていく自信がついた」と話していました。



また、学校で様々なトラブルを抱えていた中学生は、「百年分のありがとをもらえた。来年もゼッタイ参加する」と嬉しそうにいていました。誰にでも自分の存在を認められる第三の場所が必要です。一年のうちの一つだった一日。子どもたちにとっては、それでもかけがえのない居場所となっていたようです。こういう場所はなかなか見つけられないと思います。若い世代にバトンを渡せたらいいですね。

木村

以前、吉富さんが、東日本大震災の時に人とのつながりが何よりも大事だと学んだはずなのに、コロナ禍では人との距離

青木代表

そうだね。距離があれば、助けを必要としている人の声も聞こえにくくなる。弱い立場にいる人を見捨てることにもなる。戦争を体験してきた身にとっては、ひとりひとりの声が聞こえるつながりが何よりも大事だと思う。そういう意味でもふれあいバザーは貴重です。次世代につなげたいね。

司会

30年の歩みをお聞かせいただき、ありがとございます。次回はいの笑顔をお聞かせ、ふれあいのバザーとなるといいですね。井戸を掘ってくださいました安井先生、青木先生に心からの感謝を申し上げます。玉井さんや皆さんのご苦勞にも感謝を。長時間ありがとございました。



第30回

青空の下

『まちに 優しさがあふれる日』

紙面

ダンボ

ふれあいバザー

安心ですよ、
いかがですか？

子どもたちの元気な声

お久しぶり
です！

挨拶が楽しい

おはよう
ございます！

笑顔がいっぱい

継続は力なり

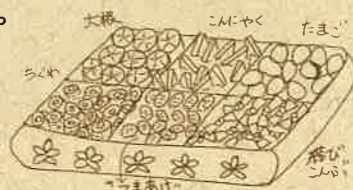
いつしか地域の年中行事になっていた11/23「ダンボふれあいバザー」は29年続き、30回目は特別企画でと意気込んでいたところ新型コロナウイルスの影響で、開催にいたっていません。

『集う』ことができない長い時間を経験し、あらためて、ふれあうことの大切を噛みしめています。

新しい生活様式に配慮した安心・安全なバザーが実現する日を心から願い、そのためのワンステップとして、ここで『第30回ダンボふれあいバザー』を紙面で開催し、長年バザーを盛り上げていただいている方々に応援メッセージをいただきました。

民生児童委員は、長い間おでんを担当してきました。

最近、300食を目指してバザー前日から準備をします。バザー当日、たくさんの鍋で6種類を煮合わせ完成。開店後すぐに、お店は大行列になります。おでんのお椀にラップをかけて、お家に持ち帰る方。お鍋をもって家族分買いに来てくれる方。おいしいよ。おいしかったの声をかけてくれる方。ご高齢者の方が、毎年楽しみにしていると言ってくれる方も嬉しいことです。今年もがんばって作って良かったねと続けてきました。皆さんの喜んで下さる笑顔が支えのおでん屋です。



和田・釜台地区民児協会会長
田中悦子

町全体でダンボふれあいバザーを後押し

ダンボさんとの関わりは、町内会長をやらせていただく以前の青少年指導員時代からだと思います。ダンボふれあいバザーは町内会の役員も楽しみに情熱をもって、取り組んでいます。連合町内会としても、高齢者と同様、子どもや障がいのある方たちに対してもサポートをしたいというわたしの願いが受け入れられつつあることをうれしく思います。

一度止まった歩みを再スタートさせるにはエネルギーが要りますが、バザーも規模や形を変えて少しずつ積み上げていけたらいいですね。そのとき自分が町内会長という立場でなくても、変わらず応援させていただきたいと思います。

和田西部町内会長
宇佐美勝彦



バザーができる日を楽しみにしています。

わたしたちは、提供品の前日の値付けと当日の販売を担当していました。提供して下さった方の気持ちを考えると、値段を付けるのはむずかしかったけれど、おしゃべりしながら楽しくやらせていただきました。お昼に青木さんが出して下さる焼き芋のおいしかったこと！これもバザーの楽しみの一つでした。当日は、もみくちゃんにされそうだったけど、タオル、下着など消耗品は飛ぶように売れました。

また、新しい形でバザーができる日が来たら、アル三缶回収やバザーを通じてできた地域の仲間と、応援に駆けつけたいです。

アル三缶回収ボランティア RE-AL (リアル)
石井三富子 / 鈴木和子 / 七尾君江 / 山際秀代 / 木原清美 / 戸栗雅代



バザー収益金をお届けした 団体からの声



ご縁をいただき、ダンボふれあいバザーには2005年から出店しています。募金箱の設置とご寄付の協力をいただきました。心から感謝を申し上げます。

当団体は子どもたちのために何かをしたいという企業・団体・個人の皆様の思いを寄付の形でお預りし、子ども・若者・子育て支援に関わる民間非営利組織へ助成金として届けています。また、子どもを巡るさまざまな課題を広く社会へ発信するセミナーやイベント等を開催しています。子どもたちが誰ひとり取り残されることのないよう、誇りと喜びを持てる地域社会づくりに寄与できたらと思っています。

小・中・高生のいじめや不登校が増えています。毎年2月をピンクシャツデー月間とし、多様性を認め合ういじめストップ！キャンペーンを展開中です。子どもたちへエールを！ご協力よろしく願います。

理事長／坂井雅之

子ども・若者の育ちを社会で支えるために生まれた市民基金です

認定 NPO 法人 神奈川こども未来ファンド

地 域 神奈川県

寄付期間 2005 年～ 2014 年

いじめストップ！
ピンクシャツデー
に全力で取り組ん
でいます！！



子どもの学習サポート・
居場所づくり

寺子屋

地 域 和田町

寄付期間 2015 年～ 2019 年



寺子屋は横浜国立大学による学生団体「ワダヨコ」による地域活動の一つで、コロナ禍以前は週一回、和田町の施設で子どもにも勉強を教えたり、お話をしたり、地域の子どもが気軽に集まれる場所を作る目的で活動しています。

ダンボさんとは、同じ和田町で活動する団体として関わらせていただいています。

特に、ダンボふれあいバザーの際にはワダヨコのメンバーが毎年参加させていただき、売り上げの一部を寄付していただけています。

頂いた寄付金は、年に数回行なっている子どもたちの季節行事に充てさせていただきました。

中野翔貴（卒業生）

キッズサポーター卒業生の声

西村 有紀（40代／小学生～中学生まで参加）

- もう30年も経つんですね。ダンボふれあいバザーでは「みんなで一緒に社会を造っている」ことを肌で感じました。綿菓子やお汁粉の販売も楽しかったです。今は県外にいますので難しいですが、機会があれば娘たちと参加したいです。



小金井 僚真

- 人の優しさにふれられた

小見山 裕未

- 福祉を知ったり、触れたりするきっかけとなった場所です。今の職業につながったのかもしれない。

小川 和樹

- 算数嫌い、お金の計算が大変

「チームK」
メンバー

松田 直彦

- アロマキャンドルを作って、地域の人が買ってくれてよかった。

小金井 拓真

- バザーは、コミュニケーション力が高まり、いつ行っても温かく迎えてくれる場所

小澤 深雪・小澤 陽向（20歳）・小澤 竜太（17歳）

- 長男が年少児の年から私が役員になったため次男は0歳から第2ダンボで過ごす時間をもたせていただきました。ダンボふれあいバザーの準備のミサンガ編みやお絵描きを手伝ったり、魚釣りゲームのお店番をした事が楽しい思い出です。兄弟とも小学校では、ボランティア委員としてダンボふれあいバザーに学校の友達と参加しました。思い出の場所での活動に2人ともはりきってお店をやりました。私たち家族は現在、別のフィールドで環境NPOの事業に参加しています。「ボランティア」への気軽なフットワークは、ダンボふれあいバザーへの参加が親子の原体験となっています。



北原 武琉（高校生／小6で参加）

- 10円ショップで店番をして、初めて「売る」体験をしたのが楽しかった。作業体験コーナーで、障がいのある人たちがものづくりをしている現場を実際に見て、みんなが社会の役に立つ仕事をしているんだと知ることができた。

北原 風雄（小6／小3で参加）

- 初めてお店を任せましたが、商売って大変だなと思いました。ダンボふれあいバザーでお友達も出来て楽しかったです。

北原 理恵（40代）

- 初めて参加した時は緊張しましたが、温かい雰囲気の中で、楽しくお手伝いできました。子ども2人もダンボふれあいバザーに参加することで、支え合って働くことの大切さを感じていました。多様性を尊重するこれからの社会について学んだり、気づいたり出来る素敵な経験となりました。またぜひ参加したいです。



30年もの長い間、「ダンボふれあいバザー」を 応援してくださったたくさんの団体に心から感謝です

後援

社会福祉法人 保土ヶ谷区社会福祉協議会

協力団体

青葉幼稚園母の会
青葉幼稚園ひまわり委員会
あそびをひろげようぴっぴの会
アルミ缶ボランティアグループ・リアル
神奈川子ども未来ファンド
神奈川青年教師会
小林グループ
小峰グループ
真福寺・真弘会
すまいるガーデン
地域と子どもプロジェクト
ときわ学童クラブ
宝積寺・ガンダーラ文庫
ボランティアグループあじさい
ボランティアグループちえの輪
南三陸支援チーム「ありがとう」
横浜教育フォーラム
横浜ボランティア協会
その他 多くの方々

飯塚花店
猪股工務店
ASA 和田町
(有)金子商事
昭和建设(株)
そば処喬月・二十日会
花龍

EAST TOWN GUITARS
コーラスグループセピア
パンチドラムカーズ
ヨコハマ・ザ・ピンクス
楽遊クラブ

神橋小学校 PTA 有志
坂本小学校児童有志
常盤台小学校 PTA 有志
星川小学校児童有志
保土ヶ谷中学校福祉委員会及び生徒有志
三ツ沢小学校児童有志
三ツ沢小学校 5.6.7 組
三ツ沢小学校ひまわり学級
峯小学校児童有志
もえぎの中学校・市ヶ尾中学校有志

保土ヶ谷区更生保護女性会
保土ヶ谷母子福祉会
和田・釜台地区民生委員児童委員協議会
和田・釜台地区連合町内会
和田地藏講
和田西部町内会
和田地区社会福祉協議会
和田東部自治会
和田町更生保護女性会
和田町商店街
和田町保護司



バザー収益寄付団体 一覧

寄付年	団体名	活動または応援内容
1995	阪神淡路大震災の義援金	
1996	メイク・ア・ウィッシュ・オブ・ジャパン	難病と闘う子どもたちの夢を実現するためのお手伝い
1997	かながわ・女のスペース"みずら"	「女性による、女性のためのなんでも相談」を目的に活動する人権団体
1998	横浜いのちの電話	悩みを抱える人の隣人としてのボランティアによる電話相談活動
1999	女性の家"サーラー"	外国人女性を含むすべての女性から相談を受け、自立支援に関する事業を行う
2000	三宅島の子どもたちへ(噴火による全島避難)	
2001	後藤ホーム	里子の養育
2002	障害者権利擁護支援団体 PAC	千葉で障がいのある人の権利擁護を中心に活動
2003	アニメ「ハードル」をつくる横浜・かながわの会	
2004	ほどがや 地域活動ホーム ゆめ	障がいのある方やその家族が、住みなれたまちの中で安心して生活していけるような支援
2005	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	市民からの寄付等により、子ども・若者を支える NPO への助成や活動の支援を行う市民ファンド
2006	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	
2007	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	
2008	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	
2009	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	
2010	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	
2011	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	
2011	ALL「ヨコハマ」	東日本大震災障がい者支援募金団体
2012	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	
2012	TEAM3	東日本大震災障がい者支援募金団体
2013	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	
2013	TEAM3	
2014	認定 NPO 法人神奈川子ども未来ファンド	
2015	寺子屋	横浜国大の学生団体「ワダヨコ」による地域活動
2015	TEAM3	水害に見舞われた常総地域への応援
2016	寺子屋	
2017	寺子屋	
2018	寺子屋	
2019	寺子屋	

ダンボふれあいバザー 30 周年記念誌

発行 2023 年 3 月

福祉を考える会 / NPO 法人ダンボの会

〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田 1-10-18 NPO 法人ダンボの会 内

TEL: 045-333-5990

※本記念誌の画像の無断使用を禁止します。